

益田市景観計画 資料編



益田市景観計画 資料編 目次

地域別景観特性と景観形成の課題及び方向性	2
地区の特徴から見る景観特性と景観形成の課題及び方向性.....	2
(1) 益田中央地域	2
益田地区	3
吉田地区	5
高津地区	7
(2) 益田東部地域	9
安田地区	9
鎌手地区	11
種地区	12
北仙道地区	13
豊川地区	14
真砂地区	15
益田東部地域の景観形成の課題及び方向性	16
(3) 益田西部地域	17
豊田地区	17
高城地区	19
二条地区	20
小野地区	21
美濃地区	23
中西地区	24
益田西部地域の景観形成の課題及び方向性	26
(4) 美都地域	27
東仙道地区	27
都茂地区	29
二川地区	30
美都地域の景観形成の課題及び方向性	31
(5) 匹見地域	32
匹見上地区	33
匹見下地区	35
道川地区	37
匹見地域の景観形成の課題及び方向性	38

資料編

1 地域別景観特性と景観形成の課題及び方向性

地区の特徴から見る景観特性と景観形成の課題及び方向性

□ 益田中央地域(益田・吉田・高津)

【地域の特徴】

二級河川益田川・一級河川高津川の間に広がる益田平野を基盤とした、本市の中心市街地としての機能を有する地域です。益田川右岸及び左岸に広がる農地と、商工業地と住宅地、丘陵地で構成され、地域の北側は日本海に面し、三里ヶ浜をはじめとする美しい海岸景観が続いています。

市街地の後背部には、『石見青垣』とも呼ばれる、中国山地の峰々が連なる山並み景観が見られ、『みどりのびょうぶ』として、市街地を包み込んでいます。

また、一般国道9号及び益田道路、同じく一般国道191号など幹線道路が交差する地域であり、萩・石見空港へのアクセスも容易であることから、観光及び物流等の主軸となる地域でもあります。

一方、人口の流動により、地域によっては空地や空き家が増加する傾向にあります。点在する空地は、まち並みの連続性の欠如を引き起こしており、まち並み景観に影響を与えつつあります。さらに、増加する空き家については、景観保全を含めた安全・衛生面での対策が課題となっています。



(※『みどりのびょうぶ』とは、市街地を包み込むように広がる樹林地のことで、平成9年3月に策定された「益田市緑の基本計画」の中で位置づけられたもの。都市の景観・環境上極めて重要な役割を持つとされています。)

【益田地区の景観特性】

益田地区は、東町・本町・三宅町・昭和町・染羽町・土井町・七尾町・幸町から成る住宅地中心の地域です。主要幹線道路は、一般国道 191 号及び主要地方道益田澄川線となっており、地域の中心を二級河川益田川が流れています。

(まち並み等)

- ・住宅地のまち並みは、古くからの在来工法住宅とプレファブ工法住宅等が混在しています。
- ・七尾山をはじめとした豊かな山並みに抱かれた、緑豊かな市街地景観を形成しています。
- ・現在も、軒の揃った商店街としてのまち並みが、わずかに残されています。
- ・益田地区には多くの寺社があり、その寺社を中心とした黒瓦屋根のまち並み景観が残されています。
- ・旧山陰道の宿場町であり、「益田宿」としての歴史的な風情を感じさせる小路や建物が残っています。
- ・鍵曲がりの道が残るなど、城下町としての面影を残すまち並みが点在しています。

(河川)

- ・益田地区は二級河川益田川を中心に発展してきた経緯があります。
- ・益田川沿いでは、四季折々の花樹を楽しむことができる、潤いのある河川景観が形成されています。

(歴史)

- ・益田地区は、中世から大正時代後期までの市の中心部であり、城下町として、また、商人の町として発展してきた“古^{いにしへ}の益田”としての顔を持つ地区です。

【景観(観光)資源】

益田氏城館跡(三宅御土居跡、七尾城跡)、医光寺総門、医光寺雪舟庭園、萬福寺雪舟庭園、^{きょうおんじかきま}暁音寺鍵曲がり、^{だいぎょうじしょうぎょうじ}暁音寺山門及び鐘楼、益田市立歴史民俗資料館、「^{やっこ}益田子ども奴保存会」、「三宅盆踊り保存会」、「土井盆踊り同好会」

【主要な寺社仏閣】

医光寺、萬福寺、暁音寺、^{せんこうじ}泉光寺、順念寺、妙法寺、妙義寺、^{つくえさま}染羽天石勝神社、机崎神社、住吉神社、天満宮、大元神社(三宅)、矢田八幡宮



【益田地区の景観形成の課題】

(まち並み等)

- ・益田地区は、歴史的背景を持つまち並みを有しますが、戸建住宅をはじめとした建築物や屋外広告物などの、色彩や形態・意匠の多様化が進み、統一感のあるまち並みが失われつつあります。
- ・背景となる山並み以外では大規模な緑地が少ない傾向にあります。
- ・益田地区特有の黒瓦景観については、歴史的景観として保全・継承する必要があります。

(河川)

・益田川沿いは、地域住民の取り組みにより、季節の花樹が楽しめる潤いのある景観を有しています。地域の景観はこのような自発的なまちづくり活動により支えられており、今後も継続のための支援が必要です。

(歴史)

- ・景観資源となる文化財及び歴史的建造物が多く点在する地域であり、本市の歴史を伝える資源として今後も保全・継承していくことが大切です。

【益田地区の景観形成の方向性】

○「歴史・文化のまち」として、点在する文化財等を中心とした歴史的景観と、益田川や緑豊かな山々の自然景観とを結び、風情を活かした魅力ある景観を形成する。

【吉田地区の景観特性】

吉田地区は、久城町・下本郷町・乙吉町・有明町・常盤町・駅前町・あけぼの西町・あけぼの本町・あけぼの東町・多田町・水分町・元町・赤城町・栄町・中吉田町・中須町・中島町から成る、住宅地及び商業地中心の地域です。

地域内の主要幹線道路は、一般国道9号及び191号であり、地域内中吉田交差点で交差しています。また、一般国道9号益田道路の一部開通に伴い、一般県道久城インター線によって新たに国道間が結ばれたところです。また、都市計画道路中島染羽線の整備に伴い、本市の中心的・拠点的な機能を有する地区となっています。

(まち並み等)

- ・都市計画道路中島染羽線に沿って、JR益田駅・グラントワを中心とした商業地景観が見られます。
- ・駅周辺は、駅前再開発事業に伴う家屋の移転等で、所々で空地が目立つ状態になっています。
- ・「益田川左岸北部」「中吉田平田地区」において土地区画整理事業が行われ、新しい市街地景観が形成されつつあります。
- ・一般県道久城インター線及び市道中吉田久城線周辺においては、土地区画整理事業に伴い新興住宅地及び大規模商業店舗の立地が相次いでおり、それに伴い屋外広告物等が林立し、煩雑な景観となっています。
- ・久城町・下本郷町を中心とした南側の地域は、既存の丘陵住宅地が広がっています。
- ・中須町・中島町には、赤瓦のまち並み景観が形成されています。

(河川)

- ・二級河川益田川と一級河川高津川の下流域となっており、二大河川を軸とした、潤いのある景観が形成されています。

(海岸)

- ・海岸線沿いは、日本海に沈む夕陽を堪能できる「夕陽スポット」として、多くの市民に愛されています。
- ・中須町の海岸線には、古くから防風林としての機能を持つ松林によって『白砂青松』の海岸景観が構成されており、現在も地域住民の手によって保全・管理されています。

(農地)

- ・益田川と高津川の河口部には、農地と住宅地が併存する田園景観が広がっています。

(歴史)

- ・スクモ塚古墳をはじめとした、大規模な古墳が多く点在しています。



- ・大正時代後期にJR益田駅が開業して以降、益田地区から市の中心部としての機能が移行し、“新しい益田”として発展してきた背景があります。
- ・益田川左岸北部地区土地区画整理事業に伴う発掘調査により確認された「中須東原遺跡」^{なかすひがしはら}は、歴史的価値が重視され、国史跡として指定されています。

【景観(観光)資源】

福王寺石造十三重塔、今市船着場跡、四塚山古墳群、スクモ塚古墳、小丸山古墳、扇原関門跡、岸静江国治の墓、益田運動公園、雪舟の郷記念館、中須の松林、多田温泉、大喜庵、雪舟の墓、鴨嶋展望地、島根県芸術文化センター グラントワ、石見神楽「久城社中」「上吉田保存会」、「益田糸あやつり人形保持者会」

【主要な寺社仏閣】

延命寺、観生院、賢照院、福王寺、薬王寺、興順寺、専光寺、西福寺、相続庵、水分神社、辻之宮八幡宮、熊野松神社、大塚神社、櫛代賀姫神社、乙吉八幡宮、大元神社(中吉田)、大元神社(下本郷)、巖島神社(中須)、大元神社(多田)

【吉田地区の景観形成の課題】

(まち並み)

- ・市の玄関口に当たる都市計画道路中島染羽線沿線の商業地景観については、建築物及び工作物や屋外広告物等に関して、まち並みの調和を乱さないような配慮が必要です。
- ・土地区画整理事業及び再開発事業等に伴い、既存住宅地以外にも新しいまち並みが形成されつつありますが、様々な種類・用途の建築物が混在する状況にあります。
- ・中須町及び中島町の赤瓦景観については、本市の特徴的な景観であるため、現状の良好な景観を保全・継承するための配慮が必要です。
- ・地区内の大規模な建築物及び屋外広告物等については、色彩等に対する配慮が必要な状況となっています。

(河川)

- ・益田川沿いは、地域住民の取り組みにより、季節の花々が楽しめる潤いのある景観を有しています。地域の景観はこのような自発的なまちづくり活動により支えられており、継続のための支援が必要です。

(海岸)

- ・美しい海岸景観は、貴重な景観資源であり、今後も大切に保全・継承していく必要があります。

(農地)

- ・都市景観の背景となる山並み以外の貴重な緑地ですが、一部では市街地化による住宅地等への転用が続き、農地は減少傾向にあります。

【吉田地区の景観形成の方向性】

○日本海の海岸景観と、益田川や高津川をはじめとした潤いのある河川景観を活かしながら、市街地の背景となる山並み景観と住宅地・商業地との調和を図り、賑わいの軸となる都市景観を形成する。

【高津地区の景観特性】

高津地区は、須子町・飯田町・高津町・高津一丁目～八丁目から成る、住宅地及び商工業施設中心の地域です。

主要幹線道路は、一般国道 9 号及び 191 号であり、地域を横断する一般国道 9 号益田道路及び一般県道久城インター線によって結ばれています。

(まち並み等)

- ・高津地区では、近年、大規模商業施設が集積する傾向にあり、新たな商業地景観が形成されつつあります。
- ・国道 191 号沿いでは、国道を挟んで住宅地と商工業施設が密集する、新たな都市機能を持つ市街地景観が形成されています。
- ・国道 191 号沿いでは、屋外広告物の多い煩雑な景観が見られます。
- ・柿本神社の周辺は、門前町の面影が残るまち並みが残っており、本市の歴史あるまち並みのひとつとなっています。
- ・飯田町をはじめ、赤瓦のまち並み景観が形成されている地域があります。

(河川)

- ・清流として名高い高津川では、鮎釣りを楽しむ“太公望”が多く見られ、地域の風物詩となっています。
- ・高津川の河川沿いでは、環境整備のために地域で積極的に景観まちづくりに取り組む団体が多くあります。
- ・高津川にかかる白い 5 連のアーチが美しい「高角橋^{たかつのぼし}」は、土木学会推奨土木遺産に登録されています。

(海岸)

- ・海岸線沿いは、日本海に沈む夕陽を堪能できる「夕陽スポット」として、多くの市民に愛されています。
- ・持石海岸をはじめとした美しい海岸線には国道 191 号がほぼ並走しており、道沿いから豊かな自然景観を楽しむことができます。

(農地)

- ・飯田町には、ハウスを中心としたまとまりのある優良農地が広がっています。

(自然公園)

- ・蟠竜湖及び島根県立万葉公園及び市民の森から成る緑豊かな自然景観を有しており、レクリエーション機能を兼ね備えた地域となっています。

(歴史)

- ・江戸時代に現在の場所に移転され現在に至る「柿本神社」は、本殿が県有形文化財に指定されています。
- ・高津港(現益田港)が津和野藩の外港として栄えた経緯から、高津地区は港町としても発展してきました。



高津川と高角橋

【景観(観光)資源】

島根県立万葉公園及び市民の森、蟠竜湖、持石海岸(三里ヶ浜)、観音岩、高角橋、飯田吊橋、流鏝馬(やぶさめ)、松崎の碑、石見神楽「須子社中」「高津神楽社中」、「やぶさめ保存会」、「ホーランエー保存会」、「持石田植囃子保存会」

【主要な寺社仏閣】

大龍寺、海雲寺、教西寺、源光寺、柿本神社(高津)、高津八幡宮、飯田八幡宮、須子八幡宮、春日神社

【高津地区の景観形成の課題】

(まち並み等)

- ・大規模な商業施設の集積に伴い、既存住宅地以外にも新しい都市機能を持つまち並みが形成されつつありますが、建築物・工作物及び屋外広告物等に対する配慮が必要です。
- ・赤瓦景観については、本市の特徴的な景観であるため、現状の良好な景観については保全が必要です。
- ・沿線の大規模な建築物及び屋外広告物等については、色彩等に対する配慮が必要な状況となっています。
- ・歴史的背景を持つまち並みを有する地域については、戸建住宅をはじめとした建築物や、屋外広告物などの色彩や形態・意匠の多様化が進み、統一感のあるまち並みが失われつつあります。
- ・柿本神社周辺の門前町の形態を残すまち並みについては、保全・継承のための対策が必要です。

(河川)

- ・高津川は、連続して清流日本一に輝いた誇るべき地域資源です。高津川流域は、景観資源として一体的に保全・継承に取り組む必要性があります。

(海岸)

- ・美しい海岸景観は、貴重な景観資源であり、今後も大切に保全・継承していく必要があります。

(農地)

- ・都市景観の背景となる山並み以外の貴重な緑地ですが、一部では市街地化による住宅地等への転用が続き、農地は減少傾向にあります。

【高津地区の景観形成の方向性】

○地域の生活と密接に関わる中で残されてきた田園景観などの生活景観と、海岸景観や河川景観をはじめとした多様な自然景観を保全・活用するとともに、新たに形成される市街地との調和を図りながら、良好な都市景観を形成する。

□益田東部地域(安田・鎌手・種・北仙道・豊川・真砂)

【地域の特徴】

益田市のほぼ中央部に位置し、浜田市及び津和野町と隣接する地域で、日本海に面する安田・鎌手地区以外は、地域内の大部分を山林が占める中山間地域となっています。

地域内を通る主要な幹線道路は、一般国道9号及び益田道路、同じく一般国道191号及び488号などがあり、海岸線に沿ってJR山陰本線が走っています。また、基幹農道である「西石見広域農道」及び「石見西部広域農道」は地域内の豊川地区を起点としており、隣接する浜田市から市の美都地域を通り、西部地域を経て山口県萩市へと至る、市を東西に結ぶ交通の結節点でもあります。

山間部においては、離農や高齢化・過疎化に伴う耕作放棄地の増加に加え、空き家の増加も問題となっています。



【安田地区の景観特性】

安田地区は、津田町・遠田町から成る地域で、地域内にはJR山陰本線が通り、石見津田駅を有します。

主要幹線道路は、一般国道9号及び益田道路、一般県道東仙道津田停車場線及び益田種三隅線であり、二級河川津田川の中下流域となっています。

津田町では、駅周辺から海岸沿いにかけて漁村特有の集落が形成されています。一方、遠田町は、住宅地中心のまち並みと山側の農村景観とを併存しています。

(まち並み等)

- ・安田地区には、国道9号付近を境として、海側に漁村景観が、山裾に向かっては農村景観が広がっています。
- ・津田町の海岸部は、板張り・赤瓦屋根の住宅が立ち並ぶ整ったまち並み景観が見られます。これは、海岸部の集落が旧山陰道の街道筋に位置していたことから、宿場町に近い役割を果たしたであろう面影を残すまち並み景観が残されているものと推測されます。
- ・漁村特有の生活道があり、独特の雰囲気を出しています。
- ・山間部の集落では、丘陵地に形成された田畑の周辺に赤瓦屋根の農家住宅をはじめとした戸建住宅が点在する、良質な農村景観が見られます。
- ・近年、国道9号の沿線をはじめ、農村・漁村集落の中にもプレファブ工法住宅等が建設される傾向にあり、古くからの在来工法住宅とプレファブ工法住宅等が混在する様子が見られます。



(河川)

・津田町を縦断する津田川が日本海へと注いでおり、河口部には、漁村景観が広がっています。

(海岸)

・津田漁港及び地方港湾遠田港が設けられています。

・海岸線沿いは、日本海に沈む夕陽を堪能できる「夕陽スポット」として、多くの市民に愛されています。

・なだらかな浜が続く津田海岸は、季節には多くの海水浴客で賑わいます。

(農地)

・遠田町の国道9号から海岸沿いにかけての一部の地域には、圃場整備された農地と住宅地が併存する光景が広がっています。

・遠田町及び津田町にまたがる東部地区国営開発パイロット農地(通称:東部開パイ)には、果樹園をはじめとした優良農地が広がっています。

・休耕田を活用し、菜の花を栽培する地域づくり活動が行われており、新たな景観を創出しています。



(歴史)

・遠田海岸の先端部に位置する鵜の鼻には、約1,500年前の円墳及び前方後円墳を有する「^う鵜の^{はな}鼻古墳群」があり、県指定文化財となっています。

【景観(観光)資源】

津田海岸、東部開パイ、鵜の鼻古墳群、大元古墳群、^{てらさかきちえもん}観音寺の紅藤、寺坂吉衛門の墓、石見神楽「津田神楽社中」

【主要な神社仏閣】

進徳寺、専竜寺、観音寺、東方寺、大善寺、津田八幡宮、遠田八幡宮、黒石八幡宮

【鎌手地区の景観特性】

鎌手地区は、金山町・木部町・土田町・西平原町から成る、浜田市に隣接する地域です。日本海に面する海岸線に沿ってJR山陰本線が走っており、このJR鎌手駅を中心として一般国道9号沿線に住宅及び施設等が集中しています。

主要幹線道路は、一般国道9号、一般県道野地鎌手停車場線であり、二級河川沖田川及び土田川の流域となっています。

(まち並み等)

・鎌手地区には、海側に漁村景観、山間部では農村景観を見ることができます。

・海岸部の集落では、板張り・赤瓦屋根の住宅が立ち並ぶまち並み景観が残されています。また、漁村特有の生活道が集落内に張り巡らされています。

・山間部の集落では、田畑の緑地の中に赤瓦屋根の農家住宅が点在する農村景観が見られます。

・赤瓦葺き屋根と漆喰もしくは板壁の外壁を持つ在来工法住宅が多い地域ですが、近年は農村・漁村集落の中にもプレファブ工法住宅等が建設される傾向にあり、古くからの在来工法住宅とプレファブ工法住宅等が混在する様子が見られます。

(河川)

・二級河川沖田川及び津田川が日本海へと注いでいます。

・沖田川河口部の木部町には、良好な漁村景観が広がっています。

(農地)

・県道野地鎌手停車場線及び土田川・土田川水系の河川沿いに農地が集積されており、良好な農村景観が保たれています。

(海岸)

・木部・大浜・土田に漁港が設けられています。

・鎌手地区の沖合には高島が浮かび、印象的な海岸景観を形成しています。

・海岸線沿いは、日本海に沈む夕陽を堪能できる「夕陽スポット」として、多くの市民に愛されています。

・土田海岸は遊泳場として整備されており、季節には多くの海水浴客で賑わいます。

・入り組んだ岩礁が続く海岸線が特徴で、「からおと唐音のじゃがん蛇岩」「うおまろのはな魚待ノ鼻」などの景勝地があります。

・唐音水仙公園では、市の花である「水仙」が斜面を彩る美しい景観が見られます。地元住民の活動により平成4年から水仙が植えられてきましたが、現在、海岸に咲く日本水仙の数は2百万球を超えと言われ、海を背景として大規模に広がる白い日本水仙の景観美は高く評価されています。また、平成19年には「しまね景観賞」を受賞しています。



【景観(観光)資源】

鎌手丸山古墳、土田海岸(土田遊泳場)、唐音水仙公園、唐音の蛇岩、魚待ノ鼻、洞ノ鼻^{どうのはな}、荒磯温泉

【主要な寺社仏閣】

浄本寺、西楽寺、東福寺、東伝寺、浄円寺、木部八幡宮、土田八幡宮、大日靈神社^{おおひるめ}、平原八幡宮、宇治八幡宮、三劔神社(金山)

【種地区の景観特性】

種地区は、下種町・種村町から成る中山間地域であり、浜田市に隣接しています。

地域内の主要幹線道路は一般県道益田種三隅線であり、一般県道野地鎌手停車場線が接続しています。また、基幹農道である石見西部広域農道が、一般県道種三隅線へ接続しています。

県道及び農道と並走する河川沿いには、農地と農家住宅をはじめとした戸建住宅が点在し、集落を形成しています。

(まち並み等)

・赤瓦葺き屋根と漆喰もしくは板壁の外壁を持つ在来工法住宅が多い地域ですが、近年は集落の中にもプレファブ工法住宅等が建設される傾向にあり、古くからの在来工法住宅とプレファブ工法住宅等が混在する様子が見られます。

(河川)

・種村町は、二級河川沖田川の上流域となっており、下種町において水系の4つの支流が合流しています。
・沖田川沿いの「さくら公園」には約200本の桜が植樹されており、春先には美しい桜並木となります。10数年前からは、「さくら公園」周辺の集落を中心に、さくら祭りに併せてこのぼりを泳がせるなど、地域活性化に取り組んでいます。

(農地)

・沖田川をはじめとした河川と並走する県道及び農道沿いに農地が集積されており、その周辺に農家住宅が点在する、良好な農村景観を有します。



【景観(観光)資源】

烏帽子山^{えぼし}、えぼし山あじさい園、さくら公園、石見神楽「種神楽保存会」、「種相撲甚句保存会」

【主要な寺社仏閣】

龍光寺、彌榮神社^{やさか}、下種八幡宮

【北仙道地区の景観特性】

北仙道地区は赤雁町・山折町・大草町・乙子町から成る中山間地域であり、一般県道益田種三隅線・東仙道津田停車場線及び石見西部広域農道が交差する要衝地となっています。

主要河川は、二級河川津田川及び沖田川となっており、流域には良好な農村景観を有します。

(まち並み等)

・県道沿線と津田川及び沖田川沿いに農家住宅をはじめとした戸建住宅が点在し、周辺から山沿いにかけて農地が広がる農村景観を形成しています。

・赤瓦葺き屋根と漆喰もしくは板壁の外壁を持つ在来工法住宅が多い地域ですが、近年は集落の中にもプレファブ工法住宅等が建設される傾向にあり、古くからの在来工法住宅とプレファブ工法住宅等が混在する様子が見られます。

(山並み・眺望)

・乙子町にある比礼振山ひれふりやま(権現山ごんげんさん)は、市内でも有数の展望地となっており、地域住民のみならず多くの市民から親しまれています。山頂からは、沖合の高島や遠く萩市沖の見島までが眺望できるほか、須佐の高山などの山々の連なりを一望できます。また、四季折々の豊かな自然が眺望景観に彩りを添えています。

(河川)

・山折町は、津田川の上流域となっています。

(農地)

・山折町には、東部地区国営開発パイロット農地(通称：東部開パイ)があり、観光農園やケールをはじめとした農作物が栽培される田園景観が見られます。

・津田川・沖田川及び双方の水系河川流域には、まとまった良好な農地が点在しています。



【景観(観光)資源】

比礼振山(権現山)、東部開パイ山折工区、
農村公園「赤雁の里」、
石見神楽「大草神楽愛好会」、「北仙道田植囃子」

【主要な寺社仏閣】

明顕寺、円通寺、東陽庵、山折八幡宮、赤雁八幡宮、
大草八幡宮、佐毘賣山神社



【豊川地区の景観特性】

豊川地区は、大谷町・久々茂町・岩倉町・栃山町から成る中山間地域で、一般国道 191 号及び西部広域農道・西石見広域農道が主要幹線道路となっています。

また、二級河川益田川及び水系の河川周辺に、良好な農村景観を有しています。

(まち並み等)

・主要幹線道路の沿線と益田川等の河川に沿って、農家住宅をはじめとした戸建住宅が点在し、川沿いには圃場整備されたまとまりのある農地を持つ、良好な農村景観を形成しています。

・赤瓦葺き屋根と漆喰もしくは板壁の外壁を持つ在来工法住宅が多い地域ですが、近年は集落の中にもプレファブ工法住宅等が建設される傾向にあり、古くからの在来工法住宅とプレファブ工法住宅等が混在する様子が見られます。

・大谷町の本隘地区は、集落のほとんどの住宅が赤瓦屋根となっています。

(山並み・眺望)

・益田市で唯一、一等三角点のある「^{にらくさま}葦草山」は、地域住民によって登山道の倒木除去などが行われ、新たに整備されています。山頂からは、^{おおどうやま}大道山や萩市の高山、益田市街地を経て日本海までを見渡すことができ、その眺望から地域住民をはじめとして広く市民に愛されています。

(河川)

・二級河川益田川の中流域となっています。

・久々茂町には、完成した穴あきダム(流水型ダム)では国内最大規模とされる「益田川ダム」があります。

・大谷町では、本益川に沿ってあじさいが植栽されており、季節感を演出するとともに潤いのある景観づくりが行われています。

(農地)

・圃場整備されたまとまりのある農地が、河川沿いに点在しています。



【景観(観光)資源】

大谷城跡、大谷土居跡、上久々茂土居跡、葦草山、岩柄しだれ桜、大谷温泉、石見神楽「久々茂保存会」

【主要な寺社仏閣】

得毫寺、八坂神社、久々茂惣八幡宮、大元神社(栃山)

【真砂地区の景観特性】

真砂地区は、波田町・長沢町・馬谷町・下波田町から成る中山間地域で、津和野町に接しています。主要地方道益田澄川線が基幹道路となっており、県道の沿線と二級河川波田川沿いに集落が形成されています。なお、長沢町は3つの集落に分かれ、平野山を挟み位置する柿原集落にあっては、隣接する益田西部地域の高城地区に生活基盤を置いています。

(まち並み等)

- ・国道の沿線と波田川等の川沿いに圃場整備されたまとまりのある農地を持ち、山裾に向かって農家住宅をはじめとした戸建住宅が点在する、良好な農村景観を形成しています。
- ・赤瓦葺き屋根と漆喰もしくは板壁の外壁を持つ在来工法住宅が多い地域ですが、近年は集落の中にもプレファブ工法住宅等が建設される傾向にあり、古からの在来工法住宅とプレファブ工法住宅等が混在する様子が見られます。
- ・真砂中学校には、約40本の桜があり、美しい桜のある景観を次世代に引き継ぐため、地域を挙げて保全活動に取り組んでいます。

(山並み・眺望)

- ・日晩山ひぐらしやまをはじめとした山林が、地域内の大半を占めています。また、日晩山の稜線は、地域の背景としての役割を果たしています。
- ・日晩山は、地域のシンボルとして親しまれており、地域住民によって登山道(島根県自然観察路選定)が整備されています。山頂からは、比礼振山や遠く日本海を臨むことができます。

(河川)

- ・益田川水系波田川の上流域となっています。

(農地)

- ・圃場整備されたまとまりのある農地が点在しています。
- ・丘陵地では、棚田や段々畑のある農の景観が見られます。
- ・高齢化や人口減に伴い、耕作放棄地の増加が懸念されています。

【景観(観光)資源】

真砂中学校の桜ろっぽうせきと六方石、日晩山じやたまき、真砂自然観察路、「真砂田植囃子保存会 藤三会」、石見神楽「真砂神楽保存会」

【主要な寺社仏閣】

西光寺、円福寺、集福寺(集福院)、宗兼院、見光庵、巖島神社(馬谷)、平野山神社、高波山神社、波田八満宮



【益田東部地域の景観形成の課題】

(まち並み等)

- ・赤瓦を主とした瓦葺き屋根と漆喰もしくは板壁の外壁を持つ在来工法住宅が多い地域ですが、近年は、建材や嗜好の多様化により、古くからの在来工法住宅とプレファブ工法住宅等が混在する様子が見られます。
- ・旧街道沿いの集落等に残る古いまち並みは、歴史的背景を有する景観資源として保全・継承していく必要があります。
- ・地域を活性化するためのまちづくり活動により、新たな景観の創出がみられますが、地域の特色を活かしたまちづくりのためには継続した支援が必要です。

(山並み・眺望)

- ・地域のシンボルとして親しまれてきた山々は、その山容の美しさだけでなく、山頂からの眺望も多くの人に愛されてきました。現在は、地域住民が主体となって登山道の整備や維持管理等に取り組んでおり、美しい山容や良好な眺望景観の保全・継承のためには、景観を阻害しないような配慮と、活動等に対する継続的な支援が必要です。

(河川)

- ・各地域の河川沿いでは、地域住民の取り組みにより、季節の花樹が楽しめる潤いのある景観が形成されています。地域の景観は、このような自発的なまちづくり活動により支えられており、今後も継続のための支援が必要です。

(海岸部)

- ・美しい海岸景観は、貴重な景観資源であり、今後も大切に保全・継承していく必要があります。
- ・海岸部の集落では、概ね家屋の形態・意匠が統一されているため、一体感のある漁村景観を形成しています。このような良好な漁村景観を有する地域については、建築物等の建設に対する配慮が必要です。
- ・鎌手地区の唐音水仙公園の「水仙のある海岸景観」は、保全・継承のための配慮が必要です。

(農地)

- ・一定のまとまりを持った農地については、農業及び農村・田園景観の基盤として、維持・活用していくことが必要です。
- ・山間部や丘陵地の棚田や段々畑、集落単位で集積された農地など、山並みの緑と併せ良好な緑地景観を有していますが、離農や高齢化、過疎化に伴う耕作放棄地の増加が懸念されています。

【益田東部地域の景観形成の方向性】

○海岸部の集落に残る漁村特有の景観と海岸美との調和を図り、山間部の農村・田園景観や緑豊かな山々との調和を図ることで、生活景と自然景観上の対極的な性質を併せ持つ、それぞれの地域の個性を活かした特徴的な地域景観の保全・継承を図る。

□益田西部地域(豊田・高城・二条・美濃・小野・中西)

【地域の特徴】

益田市の西部に位置し、山口県萩市及び津和野町と隣接する地域で、日本海に面する小野地区以外は、地域内の大部分を山林及び丘陵地が占める中山間地域となっています。

地域内を通る主要な幹線道路は、一般国道9号・191号・488号及び主要地方道益田阿武線等があり、海岸線に沿ってJR山陰本線が走っています。また、基幹農道である「西石見広域農道」は、国道・県道と並び市内東部地域と隣接する市町への重要な交通網となっています。

東部地域と同様に、山間部においては、離農や高齢化・過疎化に伴う耕作放棄地の増加に加え、空き家についても増加傾向にあります。



【豊田地区の景観特性】

豊田地区は、左ヶ山町・本俣賀町・梅月町・安富町・横田町から成る地域で、地域内をJR山口線が通り、本俣賀駅を有します。

主要幹線道路は、一般国道9号及び488号であり、基幹農道である西石見広域農道が地域を横断しています。

地区内には、圃場整備された優良な農地が各所にあり、良好な田園景観及び農村景観を有しています。

(まち並み等)

・河川及び道路沿いに赤瓦葺き屋根と漆喰もしくは板壁の外壁を持つ在来工法住宅が多い地域ですが、近年は集落の中にもプレファブ工法住宅等が建設される傾向にあり、古くからの在来工法住宅とプレファブ工法住宅等が混在する様子が見られます。

・安富町及び横田町の国道9号沿いは、旧山陰道の街道筋に当たり、宿場町としての要素も備えていたことから、現在も通りに面して統一された在来工法住宅が建ち並んでいる景観が見られます。一方で、戸建住宅の建て替え等に伴い、プレファブ工法住宅等への移行が見られ、統一感のあるまち並みが失われつつあります。同様に、周辺集落でも、まち並みの統一感が失われつつある状況が見られます。

・軒の高さが揃った切妻・赤瓦屋根・板壁もしくは漆喰白壁の戸建住宅が多く、歴史を感じさせる落ち着きとまとまりのある農村景観を形成しています。



- ・豊田地区の農家住宅には、漆喰白壁もしくは土壁の土蔵が多くあり、蔵に施された「鏝絵」にも様々な種類があることから、地域の歴史を感じることができます。
- ・山間部の集落では、丘陵地に形成された田畑の周辺に赤瓦屋根・板壁又は漆喰白壁の農家住宅が点在する農村景観が見られます。
- ・横田町の国道9号沿いでは、大規模な施設等の建築物が相次いで建設されており、建物それぞれの色彩や形態・意匠等が異なるため、周辺民家との調和を欠いたまち並みが形成されつつあります。

(河川)

- ・横田町は、一級河川高津川とその支流である匹見川の合流地点となっており、豊かな自然景観を身近に感じることができます。
- ・川沿いの潤いのある自然景観に加え、赤瓦の農村集落の生活景観が、美しく良好な景観を形成しています。
- ・匹見川及び高津川流域の鮎釣りは、地域の風物詩となっています。
- ・高津川に架かる「安富吊橋」は、地域のシンボルとして親しまれています。

(農地)

- ・横田町・安富町の国道9号から高津川沿いにかけては、圃場整備された大規模な農地となっており、周辺の赤瓦屋根の住宅と相まって、美しい農村・田園景観を形成しています。



左ヶ山町



高津川に架かる安富吊橋

【景観(観光)資源】

安富吊橋、石見神楽「横田社中」「梅月神遊座」、「梅月田植囃子保存会」、「高津川いかだ流し」

【主要な寺社仏閣】

長寅寺、守源寺、養光寺、西禅寺、聖浄寺、称念寺、善正寺、教本寺、正法寺、教正寺、大歳神社、豊田神社、安富神社、本俣賀八幡宮、天満宮(梅月)、大元神社(左ヶ山)

【高城地区の景観特性】

高城地区は、猪木谷町・薄原町・白岩町・隅村町・神田町・向横田町から成る地域で、津和野町に隣接しています。

地域内にはJR山口線が通り、石見横田駅を有します。主要幹線道路は、一般国道9号及び488号、一般県道美濃地石見横田停車場線となっています。

また、地区内には圃場整備された優良農地が各所にあり、良好な田園景観及び農村景観を有しています。

(まち並み等)

・道路沿いに赤瓦葺き屋根と漆喰もしくは板壁の外壁を持つ在来工法住宅が多い地域ですが、近年は集落の中にもプレファブ工法住宅等が建設される傾向にあり、古くからの在来工法住宅とプレファブ工法住宅等が混在する様子が見られます。

・戸建住宅の多くは、切妻・赤瓦屋根・板壁もしくは漆喰白壁の住宅が多く、落ち着きとまとまりのある農村景観を形成しています。

・高城地区の農家住宅には、漆喰白壁もしくは土壁の土蔵が多くあり、また、蔵に施された「鍍絵」にも様々な種類があることから、地域の歴史を感じることができます。

・山間部の集落では、丘陵地に形成された田畑の周辺に赤瓦屋根・板壁又は漆喰白壁の農家住宅が点在する農村景観が見られます。

(河川)

・高城地区は一級河川高津川の中流域となっており、豊かな自然景観を身近に感じることができます。

・川沿いの潤いのある自然景観に加え、赤瓦の農村集落の生活景観が、美しく良好な景観を形成しています。

(農地)

・向横田町・白岩町・隅村町にあつては、国道488号から高津川沿いにかけて、それぞれ圃場整備された大規模な農地が広がっており、周辺の赤瓦屋根の住宅と相まって、美しい田園景観を形成しています。



【景観(観光)資源】

向横田城跡、豊川発電所、丸山のイチイ檜、鮎の火振漁、民謡「向横田節」、「向横田郷土芸能保存会」

【主要な寺社仏閣】

永沢寺、得台寺、白岩神社、隅村八幡宮、恵美須神社、柿原神社、大元神社(薄原)、大元神社(薄原)
※2社あり、猪木谷八幡宮、高城神社、向横田八幡宮、愛宕神社

【二条地区の景観特性】

二条地区は、黒周町・柏原町・愛栄町・桂平町・上黒谷町から成る地域で、津和野町及び山口県萩市に接しています。主要幹線道路として、主要地方道益田阿武線及び津和野田万川線、一般県道益田津和野線があり、併せて基幹農道として西石見広域農道が交差しています。

地区内には、河川沿いに集積された小規模な農地と各所に点在する戸建住宅から成る、良好な農村景観が存在しています。

(まち並み等)

・河川及び道路沿いに赤瓦葺き屋根と漆喰もしくは板壁の外壁を持つ在来工法住宅が多い地域ですが、近年は集落の中にもプレファブ工法住宅等が建設される傾向にあり、古くからの在来工法住宅とプレファブ工法住宅等が混在する様子が見られます。

・戸建住宅の多くは、切妻・赤瓦屋根・板壁もしくは漆喰白壁の住宅が多く、まとまりのある農村景観を形成しています。

・山間部の集落では、丘陵地に形成された田畑の周辺に赤瓦屋根・板壁又は漆喰白壁の農家住宅が点在する農村景観が見られます。

・地区内には、田園地帯を南北に貫く約 1.2Km の農道があり、「愛の一本道」の愛称で親しまれています。

(河川)

・二条地区は一級河川高津川水系の上流域となっており、上黒谷川をはじめ 6 つの支流を有します。

・二条川流域では、ホテル観賞を楽しむことができ、幻想的な光景は、地域の風物詩となっています。

(農地)

・県道及び農道と河川沿いに小規模な農地が集積されており、その周辺に農家住宅をはじめとする戸建住宅が点在する、農村の原風景とも言うべき良好な農村景観を有します。

(眺望)

・地域内の横山城跡・金ヶ峠地区からは雲海を見ることができるほか、遠く日本海を臨むことができます。

【景観(観光)資源】

横山城跡、二条川のホテル、「二条田植囃子保存会」、「上黒谷田植囃子保存会」、「桂平田植囃子保存会」

【主要な寺社仏閣】

桂正寺、柏原八幡宮、黒周八幡宮、上黒谷八幡宮、桂平八幡宮



【小野地区の景観特性】

小野地区は、飯浦町・小浜町・戸田町・喜阿弥町から成る、山口県萩市に隣接する地域です。益田西部地域で唯一日本海に面する地域であり、海岸線に沿って、JR山陰本線が走り、JR戸田小浜駅及び飯浦駅を有します。主要幹線道路は一般国道191号及び一般県道益田津和野線となっています。

海岸線に沿って一般国道191号が走り、国道を境に、海沿いは漁村の特色が残る集落に、山側に向かっては、農村景観の特色が強い地区となっています。



(まち並み等)

・飯浦町は、湾状の海岸の海側に漁村景観、内陸部へ向かっては農村景観を有する、半農半漁のまち並み景観が見られます。また、旧山陰道の街道筋に位置していたことから、現在も古いまち並みの面影が残っています。

・海岸部の集落では、板張り・赤瓦屋根の住宅が立ち並ぶまち並み景観が残されています。また、漁村特有の生活道が集落内に張り巡らされています。

・小野地区では、集落を縦断する河川に沿って、在来工法住宅が建ち並び、周辺に田畑の緑地が広がっています。

・飯浦町と小浜町は、赤瓦葺き屋根と漆喰もしくは板壁の外壁を持つ「厨子二階」と呼ばれる在来工法住宅が多い地域ですが、近年は農村・漁村集落の中にもプレファブ工法住宅等が建設される傾向にあり、古くからの在来工法住宅とプレファブ工法住宅等が混在する様子が見られます。

・小野地区内には、鏝絵が施されている戸建住宅や蔵が多くあります。

(河川)

・二級河川喜阿弥川・二見川・飯浦川が日本海へと注いでおり、河川沿いに住宅が立ち並んでいます。

(農地)

・県道及び農道と河川沿いに農地が集積されており、その周辺に農家住宅をはじめとする戸建住宅が点在する、良好な農村景観を有します。

・喜阿弥町の一部には西部地区国営開発パイロット農地(通称:西部開パイ)が広がっており、遮るもののない拓けた田園景観を形成しています。

・戸田町には、国道及び河川沿いに大規模な農地が集積されており、良好な農村・田園景観を有します。

(海岸)

・飯浦漁港、小浜漁港、喜阿弥港を有します。



飯浦町のまち並み



衣毘須神社(宮ヶ島)と猫島

・飯浦町から小浜町にかけての海岸線は、微リアス式海岸の特徴を有し、「鑪崎^{たたらさき}」や「人形ノ鼻」などの切り立った断崖が続くのに対し、三里ヶ浜の一部に数えられる小浜海岸から喜阿弥海岸にかけては、なだらかな海岸線が続いています。

・飯浦町の沖合には三生島が浮かび、印象的な海岸景観を形成しているほか、人形峠^{じんぎょう}からの絶景は地域内外から愛されています。

・小浜海岸には、「猫島」や「宮ヶ島」などの砂浜から突き出た岩礁があり、「宮ヶ島」には「衣毘須神社」が鎮座しています。また、「宮ヶ島」は、満潮時には砂浜が海中に没してしまい、孤島となります。猫が背を丸めたような「猫島」と、「衣毘須神社」のある「宮ヶ島」の風景は、地域のシンボルとして親しまれています。

・海岸線沿いは、日本海に沈む夕陽を堪能できる「夕陽スポット」として、多くの市民に愛されています。

(歴史)

・江戸時代、飯浦港は津和野藩の外港として高津港(現益田港)とともに重要な港であったとされ、現在のまち並み形成に影響があったと考えられています。

【景観(観光)資源】

西部開パイ、鑪崎^{たたら}、松島の磁石石、人形ノ鼻、人形峠、駕籠立、宮ヶ島、猫島、人麿遺髪塚

【主要な寺社仏閣】

浄念寺、明円寺、喜阿弥八幡宮、柿本神社(戸田)、小野神社、衣毘須神社、飯浦八幡宮

【美濃地区の景観特性】

美濃地区は、有田町・美濃地町から成る地域で、山口県萩市に接しています。主要幹線道路として、一般県道益田津和野線及び美濃地石見横田停車場線が交差しています。

地区内には、河川沿いに集積された小規模な農地と戸建住宅が各所に点在しており、良好な農村景観を有します。

(まち並み等)

・河川及び道路沿いに赤瓦葺き屋根と漆喰もしくは板壁の外壁を持つ在来工法住宅が多い地域ですが、近年は集落の中にもプレファブ工法住宅等が建設される傾向にあり、古くからの在来工法住宅とプレファブ工法住宅等が混在する様子が見られます。

・山間部の集落では、丘陵地に形成された田畑の周辺に赤瓦屋根・板壁又は漆喰白壁の農家住宅が点在する農村景観が見られます。

・地区内には、休耕田を活用したひまわり植栽などに取り組む団体があり、40aの「ひまわり畑」が地域の新たな景観を形成しています。

・地区内には、お盆やお正月の帰省期間に併せ、400本のぼんぼりを灯す「ぼんぼりロード」や、「冬期イルミネーション」などに取り組む団体があり、新たな景観形成に取り組むとともに、地域を盛り上げています。

(河川)

・美濃地区は一級河川高津川水系の上流域となっており、白上川に合流する3本の支流があります。

(農地)

・白上川をはじめとした各河川及び県道沿いに、大小様々な規模の農地が集積され、その周辺に農家住宅をはじめとした戸建住宅が点在する、農村の原風景とも言うべき良好な農村景観を有します。



【景観(観光)資源】

ひまわり畑、ぼんぼりロード、冬期イルミネーション、「有田田植囃子保存会」、「美濃地田植囃子保存会」

【主要な寺社仏閣】

薬王寺、東光寺、美濃地八幡宮、恵美須神社

【中西地区の景観特性】

中西地区は、白上町・市原町・内田町・虫追町・川登町・中垣内町から成る地域で、益田西部地域の中央部に位置します。主要幹線道路として、一般県道美濃地石見横田停車場線及び白上横田線と主要地方道益田阿武線が交差し、基幹農道として、西石見広域農道が縦断しています。

地区内には、圃場整備された大規模な農地のほかにも丘陵地や山間部に棚田や段々畑があり、点在する赤瓦の戸建住宅と共に、良好な農村景観を有しています。

(まち並み等)

・河川及び道路沿いに赤瓦葺き屋根と漆喰もしくは板壁の外壁を持つ在来工法住宅が多い地域ですが、近年は集落の中にもプレファブ工法住宅等が建設される傾向にあり、古くからの在来工法住宅とプレファブ工法住宅等が混在する様子が見られます。

・戸建住宅の多くは、切妻・赤瓦屋根・板壁もしくは漆喰白壁の形態・意匠の農家住宅であり、鏝絵のある蔵を有するものもあります。これらの整った色彩や形態・意匠により、点在する家屋に統一感が生まれ、まとまりのある農村景観を形成しています。

・山間部の集落では、丘陵地に形成された田畑の周辺に赤瓦屋根・板壁又は漆喰白壁の農家住宅が点在する農村景観が見られます。

・中垣内町には、「日本の棚田100選」や「しまね景観賞」に選ばれた見事な棚田があり、良好な農村景観を形成しています。

(山並み・眺望)

・地区内の大道山は、「打歌(うた)の山」として柿本人麿にも詠まれた山であり、その優美な山容や山頂からの眺望は、地域内外の人から愛されています。また、初日の出の鑑賞スポットとしても知られており、元日には多くの登山客で賑わいます。

(河川)

・中西地区は一級河川高津川水系の上流域となっており、白上川が主要地方道益田阿武線と並走し、地区を縦断しています。

・川沿いの潤いのある自然景観に加え、点在する赤瓦の小規模集落が、農村の原風景とも言うべき良好な農村景観を形成しています。

(農地)

・白上町を中心として西部地区国営開発パイロット農地(通称:西部開パイ)があり、大規模な農地が広がっています。西部開パイでは、視界を遮るものがない拓けた田園景観を堪能することができ、農の豊かさに触れることができます。



【景観(観光)資源】

大道山、西部開パイ、中垣内の棚田、白岩神社の回り舞台、白上古墳、「白上田植囃子保存会」

【主要な寺社仏閣】

妙雲寺、極楽寺、川登八幡宮、白上八幡宮、白岩神社、市原八幡宮、菅原神社、虫追八幡宮

***** ***** ***** *****

【益田西部地域の景観形成の課題】

(まち並み等)

- ・赤瓦を主とした瓦葺き屋根と漆喰もしくは板壁の外壁を持つ在来工法住宅が多い地域ですが、近年は、建材や嗜好の多様化により、古くからの在来工法住宅とプレファブ工法住宅等が混在する様子が見られます。
- ・地域内に多く見られる鰻絵については、伝統的な意匠として、現存する建築物の形態・意匠と併せた保全・継承への対策が必要です。
- ・旧街道沿いの集落等に残る古いまち並みは、歴史的背景を有する景観資源として保全・継承していく必要があります。
- ・地域を活性化するためのまちづくり活動により、新たな景観の創出がみられますが、地域の特色を活かしたまちづくりのためには継続した支援が必要です。

(山並み・眺望)

- ・地域のシンボルとして親しまれてきた山々は、その山容の美しさだけでなく、山頂からの眺望も多くの人に愛されてきました。現在は、地域住民が主体となって登山道の整備や維持管理等に取り組んでおり、美しい山容や良好な眺望景観の保全・継承のためには、景観を阻害しないような配慮と、活動等に対する継続的な支援が必要です。

(河川)

- ・高津川及び匹見川の流域は、景観資源として一体的な環境保全に継続して取り組む必要性があります。
- ・各地域の河川沿いでは、地域住民の取り組みにより清掃活動等が行われ、季節の花樹やホタル観賞が楽しめるなどの潤いのある景観が形成されています。地域の景観は、このような自発的なまちづくり活動により支えられており、今後も継続のための支援が必要です。

(海岸部)

- ・美しい海岸景観は、貴重な景観資源であり、今後も大切に保全・継承していく必要があります。
- ・海岸部の集落では、概ね家屋の形態・意匠が統一されているため、連続性を生み出し一体感のある漁村景観を形成しています。このような良好な漁村景観を有する地域については、建築物等の建設に対する配慮が必要です。

(農地)

- ・一定のまとまりを持った農地については、農業及び農村・田園景観の基盤として、維持・活用していくことが必要です。
- ・山間部や丘陵地の棚田や段々畑、集落単位で集積された農地など、山並みの緑と併せ良好な緑地景観を有していますが、離農や高齢化、過疎化に伴う耕作放棄地の増加が懸念されています。
- ・中垣内町の良好な棚田景観については、保全・継承のための活動に対し、継続した支援の必要性があります。

【益田西部地域の景観形成の方向性】

○海岸部の集落に残る漁村特有の景観と、変化に富んだ海岸線が織りなす自然景観との調和を図るとともに、山間部の農村・田園景観や緑豊かな山々が連なる自然景観を継承することで、双方の調和を図りながら保全・活用する。

□美都地域(東仙道・都茂・二川)

【地域の特徴】

市の北東部に位置し、浜田市と隣接する地域で、地域内の大部分を山林が占める中山間地域となっています。

主要幹線道路である一般国道 191 号が地域内を横断し、この国道に浜田市から主要地方道浜田美都線及び三隅美都線が、匹見地域から一般県道美都澄川線及び美都匹見線が、益田東部地域から県道東仙道津田停車場線が、真砂地区からは主要地方道益田澄川線が合流しています。また、国道とほぼ並走する形で、地域の中央部を二級河川益田川が流れています。

美都地域では、本市の特産品である「ゆず」の栽培が盛んであり、中国地方有数の生産量を誇ります。また、近年では、多数の加工品が注目を集めています。

一方、地域全体の居住人口の減少や、山間部における離農や高齢化・過疎化に伴う耕作放棄地の増加に加え、空き家の増加も問題となっています。



【東仙道地区の景観特性】

東仙道地区は、美都町朝倉・小原・笹倉・仙道・三谷の 5 地区から成る地域で、地域内の主要幹線道路は一般国道 191 号となっています。

地区内には、圃場整備された大規模な農地のほかにも、丘陵地や山間部に棚田や段々畑があり、点在する赤瓦の戸建住宅と共に、良好な農村景観を有しています。

(まち並み等)

・地区の大部分を山間地が占めていますが、国道から山裾に向かって農地が広がり、その周辺に、農家住宅をはじめとした戸建住宅が立ち並び、集落を形成しています。

・山間部の集落では、丘陵地に形成された田畑の周辺に、赤瓦屋根の農家住宅が点在する農村景観が見られます。

・近年、国道の沿線をはじめ、農村集落の中にもプレファブ工法住宅等が建設される傾向にあり、古くからの在来工法住宅とプレファブ工法住宅等が混在する様子が見られます。

(河川)

・二級河川益田川が並走する国道と共に地域を縦断しており、周辺には、圃場整備された農地と農家住宅及び戸建住宅からなる農村景観が広がっています。

・仙道地区の益田川沿いには、芝桜や彼岸花などの季節の花が植えられており、潤いのある河川景観を形成しています。

・小原地区では、二級河川益田川水系三谷川が益田川に注いでいます。この三谷川の周辺では、ホタルの乱舞が見られ、地域を代表する風物詩となっています。



(農地)

・国道及び益田川をはじめとする路線及び河川沿いの地域には、圃場整備により集積された農地が広がっています。

(山並み)

・小原地区にある「四つ山」は、同形で同等の標高の山が四つ連なっていることに由来しており、地域の象徴として親しまれています。

(歴史)

・四つ山に築かれた四つ山城跡は、その遺構として、築城時の鎌倉時代から現在まで水をたたえているとされる井戸があるなど、地域の歴史的資産となっています。



【景観(観光)資源】

三谷川のホタル、四つ山、四つ山城跡、四つ山探勝路、さくらドーム、ひだまりパーク、「四つ山保存会」、石見神楽「三谷神楽社」

【主要な寺社仏閣】

光明寺、伝通寺、西念寺、専教寺、笹倉八幡宮、仙道八幡宮、三谷八幡宮、熊子神社



【都茂地区の景観特性】

都茂地区は、美都町久原・都茂・丸茂・山本の4地区から成る地域で、北側に当たる久原・丸茂地区が浜田市に隣接し、東側の都茂・丸茂地区が匹見地域に接しています。地域内の主要幹線道路は一般国道191号であり、匹見方面から一般県道美都澄川線及び美都匹見線が合流しています。

また、地区中心部の美都町都茂にあつては、美都地域の中心的な役割を担っており、美都総合支所をはじめとした各機関が集中しています。

地区内には、圃場整備により集積された農地のほかにも、丘陵地や山間部に棚田や段々畑があり、点在する赤瓦の戸建住宅と共に、良好な農村景観を有しています。

(まち並み等)

- ・国道から山裾に向かって、農村景観が広がっています。
- ・都茂地区は、旧津和野奥筋往還道の街道筋に位置しており、現在でも歴史を感じさせる古いまち並みや建築物が残る地域です。
- ・山間部の集落では、丘陵地に形成された田畑の周辺に、赤瓦屋根の農家住宅が点在する農村景観が見られます。
- ・近年、国道の沿線をはじめ、農村集落の中にもプレファブ工法住宅等が建設される傾向にあり、古くからの在来工法住宅とプレファブ工法住宅等が混在する様子が見られます。
- ・美都町山本の金谷地区では、四季折々に美しい農村景観を堪能できます。この美しい景観は、集落内外からの協力による継続した活動によって維持されています。

(河川)

- ・都茂地区は、春日山に源流を発する二級河川益田川の上流域となっています。また、二級河川三隅川水系丸茂川の上流域でもあります。

(農地)

- ・国道及び県道をはじめとした各路線及び河川沿いには、圃場整備により集積された大小様々な規模の農地が点在しています。
- ・美都町山本の大神楽地区では、圃場整備された美しい棚田景観を見ることができます。

(歴史)

- ・美都町山本に位置する「都茂丸山鉱山(丸山銅山)」は、平安時代から銅を産出していた山として知られており、銀を産出していた時期も含めて、県内でも有数の鉱山として伝えられています。

【景観(観光)資源】

春日山、金谷城山桜、安養寺しだれ桜、大神楽の棚田、大久保広兼石州和紙資料館、秦記念館、山根家のもみじ、旧秦博士記念図書館(ほのぼのハウスみと)、みと自然の森、



金谷地区の農村風景



安養寺しだれ桜

美都自然の森自然観察路、石見神楽「丸茂神楽社中」、「田ばやし保存同好会」

【主要な寺社仏閣】

玖光寺、安養寺、立安寺、明正寺、光雲坊、正万寺、清源寺、大智寺、都茂八幡宮、丸茂八幡宮、久原八幡宮、天満宮(山本)、山神社、熊野神社

【二川地区の景観特性】

二川地区は、美都町宇津川・板井川の2地区から成る地域で、北側が浜田市に、東側が匹見地域に接しています。地域内の主要幹線道路は一般国道191号であり、浜田方面から主要地方道三隅美都線及び浜田美都線が合流しています。

地区内には、圃場整備された大規模な農地のほかに、丘陵地や山間部に棚田や段々畑があり、点在する赤瓦の戸建住宅と共に、良好な農村景観を有しています。

(まち並み等)

- ・国道から山裾に向かって、農村景観が広がっています。
- ・宇津川地区は旧津和野奥筋往還道の街道筋に位置しており、古くからのまち並みや建物が残っています。
- ・山間部の集落では、丘陵地に形成された田畑の周辺に、赤瓦屋根の農家住宅が点在する農村景観が見られます。
- ・近年、国道の沿線をはじめ、農村集落の中にもプレファブ工法住宅等が建設される傾向にあり、古くからの在来工法住宅とプレファブ工法住宅等が混在する様子が見られます。

(河川)

- ・宇津川地区は、二級河川三隅川水系矢原川の上流域となっています。
- ・矢原川が地域を縦断しており、周辺には、整備された農地と農家住宅をはじめとした戸建住宅からなる農村景観が広がっています。

(農地)

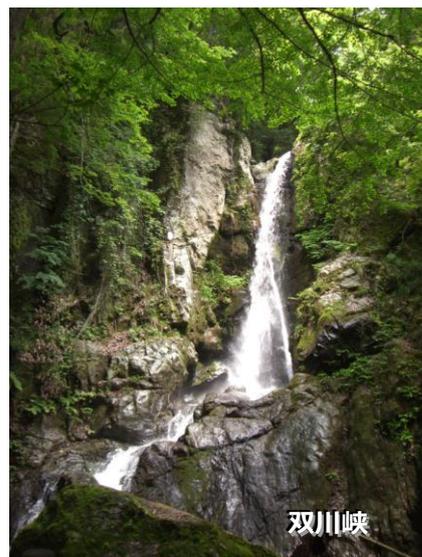
- ・国道191号と主要地方道三隅美都線及び浜田美都線が交差する宇津川地区にあっては、圃場整備された農地と住宅地が併存する田園景観が見られます。

【景観(観光)資源】

双川峡、養戸の滝、美都温泉、宇津川新宮神社の銀杏、若杉天然杉

【主要な寺社仏閣】

妙蓮寺、新宮神社(板井川)、新宮神社(宇津川)



【美都地域の景観形成の課題】

(まち並み等)

- ・赤瓦を主とした瓦葺き屋根と漆喰もしくは板壁の外壁を持つ在来工法住宅が多い地域ですが、近年は、建材や嗜好の多様化により、古くからの在来工法住宅とプレファブ工法住宅等が混在する様子が見られます。
- ・旧街道沿いの集落等に残る古いまち並みは、歴史的背景を有する景観資源として保全・継承していく必要があります。
- ・地域を活性化するためのまちづくり活動により、新たな景観の創出がみられますが、地域の特色を活かしたまちづくりのためには継続した支援が必要です。

(山並み・眺望)

- ・地域のシンボルとして親しまれてきた山々は、その山容の美しさだけでなく、山頂からの眺望も多くの人に愛されてきました。現在は、地域住民が主体となって登山道の整備や維持管理等に取り組んでおり、美しい山容や良好な眺望景観の保全・継承のためには、景観を阻害しないような配慮と、活動等に対する継続的な支援が必要です。

(河川)

- ・益田川をはじめとした各地域の河川沿いでは、地域住民の取り組みにより清掃活動等が行われ、季節の花樹やホタル観賞が楽しめるなどの潤いのある景観が形成されています。地域の景観は、このような自発的なまちづくり活動により支えられており、今後も継続のための支援が必要です。

(農地)

- ・一定のまとまりを持った農地については、農業及び農村・田園景観の基盤として、維持・活用していくことが必要です。
- ・山間部や丘陵地の棚田や段々畑、集落単位で集積された農地など、山並みの緑と併せ良好な緑地景観を有していますが、離農や高齢化、過疎化に伴う耕作放棄地の増加が懸念されています。
- ・金谷地区の良好な農村景観や大神楽地区の良好な棚田景観などについては、保全・継承のための活動に対し、継続した支援の必要性があります。

【美都地域の景観形成の方向性】

○山間部の農村・田園景観と緑豊かな山々の自然景観について、双方の調和を図りながら保全・活用する。

□匹見地域(匹見上・匹見下・道川)

【地域の特徴】

市の南東部に位置し、浜田市及び広島県と隣接する、本市で最も面積の広い地域です。一般国道 191 号及び 488 号が主要幹線道路であり、さらに、主要地方道吉賀匹見線で吉賀町と結び、一般県道波佐匹見線で浜田市と結ぶ、交通の要衝地となっています。

地域の大部分を、中国山地をはじめとした山林が占める中山間地域となっており、豊かな自然を有しています。中でも、「西中国山地国定公園」に指定されている「匹見峡」は、その美しい溪谷美から有数の観光資源となっています。また、「匹見峡」には、ヤマメやゴキなどの清流にのみ生息する淡水魚がみられ、良好な自然環境が保たれています。このほか、匹見地域は湧水の多い事でも知られており、県内でも代表的な「清水」が点在しています。



匹見地域では「ワサビ」が特産品となっていますが、これは、匹見地域が 1,000m 以上の山岳を有する高地であることと、広葉樹林に育まれた豊富な湧水を源流とする小規模な沢が多くあることなど、地理的条件がワサビ栽培に適していることにあります。沢の形をそのまま利用し、段々に連なるワサビ田の様子は「ワサビ谷」とも呼ばれ、清閑な趣を感じさせる空間を作り出しています。

また、匹見地域の特筆すべき事項として「石積みのある農村景観」が挙げられますが、この石積みは、宅地の法面だけでなく、田畑やワサビ田でも用いられており、地域になくてはならない伝統的な景観となっています。

一方、1世帯当たりの人口が1人台となっており、深刻な高齢化・過疎化が進んでいることに併せ、空き家の増加、離農に伴う耕作放棄地の増加も問題となっています。

【匹見上地区の景観特性】

匹見上地区は、匹見町匹見・紙祖・落合の3地区から成る地域であり、広島県と吉賀町に接しています。

地域内の主要幹線道路は一般国道488号及び主要地方道吉賀匹見線であり、この2路線が交差する匹見町匹見については、匹見地域の中心的機能を有する地域として、匹見総合支所をはじめとした各機関等が集中しています。

また、市の主要山岳の大部分を有する地域でもあり、美しい広葉樹林の山岳景観を見ることができます。

地区内には、圃場整備により集積された農地のほかに、丘陵地や山間部に棚田や段々畑があり、点在する赤瓦の戸建住宅と共に、良好な農村景観を有しています。

(まち並み等)

・地区の大部分を山間地が占めているため、道路沿いに圃場整備された農地が広がり、その周辺である山裾に農家住宅をはじめとした戸建住宅が点在し、集落を形成しています。

・山間部の集落では、丘陵地に形成された石積みの田畑の周辺に、赤瓦屋根の農家住宅が点在する農村景観が見られます。

・赤瓦をはじめとする瓦系の素材が屋根材として使用されていますが、積雪に対する備えから、金属の屋根材も多く用いられています。

・近年、農村集落の中にもプレファブ工法住宅が建設される傾向にあり、古くからの在来工法住宅とプレファブ工法住宅が混在する様子が見られます。

(河川)

・匹見上地区は、一級河川高津川水系匹見川の上流域となっており、この匹見川の支流である一級河川高津川水系広見川・紙祖川を有します。

・広見川の浸食によって形成された、全長約4キロの裏匹見峡を有しています。切り立った断崖やうねりのある変化に富んだ溪流が続く傍らで、神秘的な美しさを湛える淵の数々を觀賞することができ、荒々しくも印象的な峡谷美を堪能できます。

・匹見上地区と道川地区との境界部分には、匹見川の浸食により形成された表匹見峡があります。表匹見峡は連続した深い淵が特徴的で、裏匹見峡に比較すると穏やかな渓谷美であると評されています。また、全長約4キロの表匹見峡に沿って車道が整備されているため、気軽に美しい景観を楽しむことができます。

・匹見峡周辺は、河川景観に加えて、紅葉などの美しい自然景観を満喫できる場所としても知られています。

(農地)



表匹見峡 (益田東高等学校美術部 作)

・匹見川周辺を中心として、集落単位でまとまった優良な農地が広がっています。

(山並み)

・市の中でも、寂地山、安蔵寺山などの1,000m以上の山々のほとんどが匹見上地区に集中しており、中国山地の急峻かつ雄大な自然を身近に感じることができます。

(歴史・文化)

・水田ノ上・イセ・ヨレ遺跡をはじめとした縄文時代以降の遺跡群や、江田古墳群などの多数の遺跡が密集しており、古代から続く歴史を垣間見ることができます。

・匹見町紙祖の三葛地区に伝わる「三^み葛^{かづら}神楽」は、現在石見神楽の主流である「八調子」のリズムとは異なる「六調子」のリズムを継承しています。地域の保持者会によって披露される「六調子打切」の囃子は、石見神楽の元型と言われる旧神職神楽の特色である緩やかな舞いを今に伝えており、県無形民俗文化財に指定されています。



岡本の清水

【景観(観光)資源】

匹見ウッドパーク、匹見峡温泉、匹見レストパーク、匹見中央公園、表匹見峡、裏匹見峡、二ノ代の清水、葛谷の清水、鈴ヶ岳の清水、和泉堂の清水、岡本の清水、安蔵寺山、燕岳、高鉢山、大神ヶ岳、五里山、赤谷山、額々山、寂地山、春日山、広高山、鈴ヶ岳、八幡宮の夫婦權、三本柄、ホテル、石見神楽「匹見神楽保存会」「三葛神楽保持者会」、「志賀団七踊り保存会」

【主要な寺社仏閣】

弘法院、和田寺、善正寺、万徳寺、正円寺、紙祖八幡宮、匹見八幡宮、河内神社、愛宕神社、大元神社(落合)、劔玉神社、大元神社(落合)※2社あり、河内神社※2社あり

【匹見下地区の景観特性】

匹見下地区は、匹見町広瀬・澄川・石谷の3地区から成る地域で、津和野町に接しています。

地域内の主要幹線道路は一般国道488号であり、主要地方道益田澄川線と併せて真砂地区と結び、一般県道美都澄川線及び美都匹見線によって都茂地区と結ばれています。

地区内には、圃場整備により集積された農地のほかに、丘陵地や山間部に棚田や段々畑を有し、点在する赤瓦の戸建住宅と石積みのある景観と共に、良好な農村景観を有しています。

(まち並み等)

・広瀬・澄川地区にあつては、国道488号及び一級河川高津川水系匹見川を中心として集落が形成され、集積された農地と点在する戸建住宅から成る、農村景観が形成されています。

・石谷地区は、内石川・石谷川などの河川沿いに集落が形成されており、戸建住宅と小規模な農地が点在する農村景観が見られます。

・農家住宅及び戸建住宅の多くは、赤瓦屋根に板壁もしくは漆喰白壁の形態となっており、広範囲に渡り住宅が点在する中であつて、集落に統一感を持たせています。

・赤瓦をはじめとする瓦系の素材が屋根材として使用されていますが、積雪に対する備えから、金属系の屋根材も多く用いられています。

・近年、農村集落の中にもプレファブ工法住宅が建設される傾向にあり、古くからの在来工法住宅とプレファブ工法住宅が混在する様子が見られます。

(河川)

・石谷地区を上流域とする一級河川高津川水系石谷川が、澄川地区を經由して匹見川へ注いでいます。

・広瀬地区には、匹見峡の下流域である「前匹見峡」があります。

(農地)

・匹見川の周辺には、圃場整備により集積された農地と農家住宅などの戸建住宅からなる農村景観が広がっています。

(歴史)

・田原古墳・牛首古墳などの古墳時代の遺跡を有し、古くからの歴史を伴う地域です。



【景観(観光)資源】

若宮神社の銀杏、栃原の高野槇、前匹見峡、
藁蛇神事、「内谷囃子田」

【主要な寺社仏閣】

自徳庵、蓮長寺、長蓮寺、若宮神社、大元神社(広瀬)、
澄川八幡宮、内石大元神社(石谷)

***** ***** ***** *****



【道川地区の景観特性】

道川地区は、市の東側に位置し、浜田市と広島県に接しています。地域内の主要幹線道路は国道 191 号及び一般県道波佐匹見線であり、国道と交差する一般県道波佐匹見線によって浜田市及び匹見上地区と結ばれています。

地区内には、圃場整備された大規模な農地のほかにも、丘陵地や山間部に棚田や段々畑があり、点在する赤瓦の戸建住宅と共に、良好な農村景観を有しています。

(まち並み)

・国道 191 号から山裾に向かって、農村景観が広がっています。

・山間部の集落では、丘陵地に形成された田畑の周辺に、農家住宅が点在する農村景観が見られます。

・赤瓦をはじめとする瓦系の素材が屋根材として使用されていますが、積雪に対する備えから、金属系の屋根材も多く用いられています。

・近年、国道 191 号の沿線をはじめ、農村集落の中にもプレファブ工法住宅が建設される傾向にあり、古くからの在来工法住宅とプレファブ工法住宅が混在する様子が見られます。

(河川)

・道川地区は、一級河川高津川水系匹見川の上流域となっており、同地区内の出合原において一級河川高津川水系赤谷川を合わせ、匹見川が地域を縦断しています。

・匹見川支流山の谷川の浸食により形成された、匹見峡の最上流部である「奥匹見峡」を有します。匹見峡の中でも特に秘境としての魅力が強く、大小様々な美しい滝を楽しむことができます。

(農地)

・匹見川や赤谷川及び幹線道路沿いには、整備された農地と農家住宅をはじめとした戸建住宅からなる農村景観が広がっています。

・休耕田を活用しレンコン栽培に取り組むなど、新たな景観の創出に取り組む活動団体があります。

(歴史)

・赤谷川と匹見川の合流する匹見町道川出合原地区には、旧石器時代から縄文時代の遺跡「新楨原遺跡」があり、県指定文化財となっています。

【景観(観光)資源】

美濃地屋敷、奥匹見峡、「下道川下組レンコン部会」、石見神楽「道川神楽社中」、「道川囃子田保存会」

【主要な寺社仏閣】

道光寺、大元神社(道川)、道川八幡宮



【匹見地域の景観形成の課題】

(まち並み等)

- ・赤瓦を主とした瓦葺き屋根と漆喰もしくは板壁の外壁を持つ在来工法住宅が多い地域ですが、近年は、建材や嗜好の多様化により、古くからの在来工法住宅とプレファブ工法住宅が混在する様子が見られます。
- ・旧街道沿いの集落等に残る古いまち並みは、歴史的背景を有する景観資源として保全・継承していく必要があります。
- ・地域を活性化するためのまちづくり活動により、新たな景観の創出がみられますが、地域の特色を活かしたまちづくりのためには継続した支援が必要です。

(山並み・眺望)

- ・地域のシンボルとして親しまれてきた山々は、その山容の美しさだけでなく、山頂からの眺望も多くの人に愛されてきました。現在は、地域住民が主体となって登山道の整備や維持管理等に取り組んでおり、美しい山容や良好な眺望景観の保全・継承のためには、景観を阻害しないような配慮と、活動等に対する継続的な支援が必要です。

(河川)

- ・匹見川及び匹見峡をはじめとした各地域の河川沿いでは、地域住民の取り組みにより清掃活動等が行われ、季節の花樹やホテル観賞が楽しめるなどの潤いのある景観が形成されています。地域の景観は、このような自発的なまちづくり活動により支えられており、今後も継続のための支援が必要です。
- ・匹見川及び匹見峡周辺の良好な河川景観については、潤いのある自然景観として保全・継承するための配慮が必要です。

(農地)

- ・一定のまとまりを持った農地については、農業及び農村・田園景観の基盤として、維持・活用していくことが必要です。
- ・山間部や丘陵地の棚田や段々畑、集落単位で集積された農地など、山並みの緑と併せ良好な緑地景観を有していますが、離農や高齢化、過疎化に伴う耕作放棄地の増加が懸念されています。
- ・匹見地域の景観特性である「石積みのある農村景観」については、後世に伝えるべき景観として保全・継承するための配慮が必要です。

【匹見地域の景観形成の方向性】

○山間部の農村・田園景観と、清流や豊かな緑をもたらす中国山地を中心とした自然景観について、双方の調和を図りながら保全・活用する。
